

市民のみなさんと
ともに歩んだ 1000号
1000



一〇〇〇号の「節目」を迎えて



奈良市長 大川 靖則

「奈良しみんだより」は、昭和二十五年九月一日に第一号を発刊して以来、五十三年の歳月を経て、このたび一〇〇〇号という大きな節目を迎えることとなりました。

この間、第一号では国際文化観光都市建設法制定についての記事を、そして百年に一度の貴重な出会いである市制百周年の事業などの出来事や施策の

紹介、また健康をはじめとする市民生活に直結した様々な情報を発信してまいりました。

「地方の時代」を迎え、市民の皆様お一人おひとりのご意見をいただき市政に反映するため、今まで以上に情報を的確に発信し、より親しまれる紙面づくりに努めてまいります。今後ともご愛読よろしくお願ひします。

一〇〇〇号記念 発刊に寄せて



奈良市議会議長 米澤 保

「奈良しみんだより」が、記念すべき一〇〇〇号の発行を迎えられたことをお喜び申し上げます。

昭和二十五年の第一号発行以来、五十三年間にわたり、市政や市民生活に関する情報を発信され、市民の皆様に関心を持ってまいりました。

市議会でも、昭和六十年から「奈良

市議会だより」を発行して、活動の状況をお知らせしていますが、市民の皆様と市政をつなぐメディアとして、広報紙の果たす役割はますます重要となっております。

今後とも、よりわかりやすく、充実した紙面づくりに努められますよう期待しております。



紙齢一〇〇〇号

「奈良しみんだより」五十二年の歩み



昭和二十五年に第一号を発刊以降、五十三年の歳月を経て、市政広報紙「奈良しみんだより」はついに発刊一〇〇〇号を迎えることができました。これを記念して、過去の掲載記事をたどりながら、これまでの歴史をふり返ります。

発刊当初は約七万七千人であった奈良市も、現在では約三十七万人となり、街の変化とともに「しみんだより」も大きく変化してきました。

しかし、配布に携わる地域住民のみなさんをはじめ、取材に協力いただいた人々、英訳・点字訳などの翻訳ボランティアのみなさんなど、「しみんだより」発行は多くの人々に支えられています。

近年、IT化が進み広報媒体も多様化していますが、現在でも「しみんだより」は市政とみなさんをつなぐ最も重要なパイプ役です。今後とも工夫を重ね、より親しんでもらえる紙面作りをめざします。

※本号では、過去の「しみんだより」に掲載した記事や使用した写真を中心に構成しています。保存状態の関係で、変色しているものもあります。



「奈良しみんだより」第一号



市庁舎が竣工 (昭和25年 第3号)

昭和23年に火災で焼失した庁舎を再建。



**奈良国際文化観光都市建設法
住民投票終わる** (昭和25年 第2号)

観光都市・奈良の礎となった法律制定のための住民投票があり、結果は賛成22,089票、反対7,735票、投票率7割3分5厘。



緑ヶ丘浄水場が給水開始
(昭和38年 第76号)

奈良市の給水拠点として今も市民生活を支えています。



奈良遷都千二百五十年祭
(昭和35年 第64号)

3月10日からの5日間、10万人の人出で賑わいました。



敬老の日によせて
(昭和41年 第113号)

この年から、「敬老の日」が国民の祝日になりました。
この年から始まった老人大行進は、現在も万年青年大行進として続いています。

災害「備えあれば憂いなし」

53年間を振り返ると、古くは昭和36年の第2室戸台風、近年では平成7年の阪神・淡路大震災や平成10年の台風7号など、市内に被害を及ぼした災害が多くあります。

「備えあれば憂いなし」の言葉の通り、いつの時代でも災害に対する備えと心構えが大切ではないでしょうか。



第2室戸台風奈良を襲う (第68号)

			43	42	41		40	38	36	35	34		32	31		30	28	27		26		25	
12	11	3	3	9	4	12	9	7	9	3	6	9	9	4	11	3	3	3		3	1	11	9
15	3	17	12	15	1	16	17	2	16	10	12	9	1	1	6	15	31	29		15	20	3	20

昭和25年〜43年

- しみんだより第1号を発行
- 奈良国際文化観光都市建設法の住民投票を実施。10月21日に同法施行市庁舎再建
- 市内各町に町自治会が設立
- 大安寺村・東市村・平城村を奈良市に合併
- 平城宮跡を特別史跡に指定
- 春日若宮おん祭を重要無形民俗文化財に指定
- 天然記念物春日山原始林を特別天然記念物に指定
- 辰市村・五ヶ谷村・帯解町・明治村・富雄町・伏見町を奈良市に合併
- 鴻ノ池運動公園計画第1期工事として市営球場完成
- 地方財政再建促進特別措置法の適用を受ける
- 田原村・柳生村・大柳生村・東里村・狭川村を奈良市に合併
- 奈良の鹿を天然記念物に指定
- 阪奈道路が開通
- 消防署、消防本部庁舎を西木辻町に設置
- 奈良遷都千二百五十年祭
- 第2室戸台風で市内各所に被害
- 緑ヶ丘浄水場の通水式
- 台風24号で岩井川、佐保川が決壊。
- 辰市地区一帯に大きな被害
- 名阪国道が開通
- 古都保存法が施行
- 第1回老人大行進
- 第1回市民マラソン大会
- 明治100年・市制70周年記念植樹
- 初の名誉市民に岡潔氏を顕彰。市民憲章を制定
- 老人福祉センター老春の家が完成

奈良市の発展とともに...

第167号(昭和44年) ~ 718号(平成3年)

近鉄奈良駅の地下駅が営業

(昭和44年 第189号)

地上にあった駅舎が地下に移転しました。



須川ダムが完成

(昭和44年 第181号)

当時20万人の市民生活をまかなう拠点として完成しました。



現在の市庁舎が完成

(昭和52年 第362号)

市制施行80年にあたる年、北新町の三笠中学校跡に建設。



外環状線が開通

(昭和48年 第274号)

地下に直径1,000mmの水道管を埋設。現在は、ならやま大通りの愛称で呼ばれています。



人口30万人を突破

(昭和56年 第460号)

30万人目の市民は、56年2月15日生まれの永野恵ちゃん。



全国植樹祭

(昭和56年 第465号)

平城宮跡で開催。昭和天皇がイチイガシを植樹されました。

56	55	54	52	50	49	48	47	46	45	44
5	2	5	2	1	10	6	9	6	4	7
24	27	23	4	20	1	16	15	11	12	22

此瀬町で太安萬侶の墓発見
春日若宮おん祭の神事芸能を国の重要無形文化財に指定
保健センターを開所
市の人口が30万人を突破
第32回全国植樹祭を平城宮跡で開催

分別収集実施を報じたしみんだより(第367号)

市役所が北新町(現在の二条大路南一丁目)に移転
国道24号奈良バイパスが全面開通
休日・夜間応急診療所が診療開始
ごみの分別収集を実施

差別をなくす月間を定める
佐伯勇氏を名誉市民として顕彰
市役所が北新町(現在の二条大路南一丁目)に移転

都市計画道路外環状線北部地区が完成
国鉄関西本線奈良→湊町間電化が完成
中華人民共和国の西安市と友好都市宣言(盟約)

橋本凝胤氏を名誉市民として顕彰
北部出張所を開所
都市計画道路外環状線北部地区が完成

近鉄奈良の地下駅営業
大韓民国の慶州市と姉妹都市調印
福島県郡山市と姉妹都市調印
福井県小浜市と姉妹都市調印

中央体育館が完成
スペインのトレド市と姉妹都市調印
第1回福祉大会。福祉都市宣言、福祉憲章を制定
橋本凝胤氏を名誉市民として顕彰

奈良市の人口20万人突破
須川ダムが完成
西部出張所を開所

昭和44年~平成3年

世界遺産へ登録



ユネスコ世界遺産委員会

「古都奈良の文化財」が世界遺産に登録

(平成10年 第886号)

同年12月に開かれた世界遺産委員会で、東大寺・興福寺・春日大社・春日山原始林・元興寺・薬師寺・唐招提寺・平城宮跡の8資産群を、「古都奈良の文化財」として世界遺産リストへ登録することが決定。世界人類共有の財産となりました。

なら100年会館が開館 (平成11年 第889号)

市民文化発信の新しい拠点として開館しました。



なら平城遷都祭 (平成11年 第891号)

「古今東西まほろば奈良」をテーマに平城宮跡朱雀門前で開催。



浮見堂での音の灯火コンサート (左)

現在のなら燈花会から (下)



奈良市の憲章・シンボル

古より日本の都として栄えた奈良。これにちなみ、奈良市には様々な憲章があります。

昭和43年に定めた市民憲章には、日本のふるさと「奈良」に住む市民の心構えをうたいました。また、昭和47年に定めた福祉憲章には、平城京の時代から福祉事業の歴史を持つ奈良として、福祉都市の実現をめざすことを示しました。

さらに、平成14年に定めた教育憲章では、歴史や文化・伝統を継承・発展させるために教育の重要性を示しました。

なお、平成10年の市制100周年を契機に、自然環境保護と緑のまちづくりをめざし、市のシンボルとして花(ナラヤエザクラ)・木(イチイガシ)・鳥(ウグイス)も制定しています。



市民憲章制定
発表大会
(第164号)

なら音と光の回廊

(平成11年 第901号)

現在では、なら燈花会が新しい夏の風物詩になっています。

8	4	3	3	2	11	12	10	10	9	9	4	4	4	2	10
6	1	27	22	1	2	2	17	12	22	15	17	1	1	4	2

- 市制100周年記念式典。「奈良市百年宣言」を発表
- 朱雀門完成記念式典
- 総合老人ホーム和楽園を開所
- JR奈良駅西口駅前広場を供用開始。
- 同駅前再開発第1ビルがオープン
- 朱雀門・東院庭園復原記念イベント
- 「平城京98(〜4・26)」・「なら平城京98(〜5・17)」。
- 朱雀門・東院庭園が一般公開される
- 第1回市民ふれあい福祉大会
- 台風7号により、市内の文化財などに被害が発生
- 生涯学習センターが開館
- 奈良市の花・木・鳥を制定
- 「古都奈良の文化財」が世界遺産に登録決定
- なら100年会館が開館
- ごみ・再生资源分別収集の方法を細分化
- 第1回平城遷都祭(〜3・28)
- 環境基本条例を施行
- なら音と光の回廊(〜8・15)

更なる飛躍をめざして…

第911号 (平成12年) ~ 1,000号 (16年)

100選に選ばれた奈良

歴史的風土に恵まれた奈良市は、多くの風景100選に選ばれています。

▶残したい日本の音風景100選 (環境省が選定) …春日野の鹿と諸寺の鐘

▶日本の都市景観100選 (建設省が選定) …奈良公園、奈良町

▶かおり風景100選 (環境省が選定) …なら燈花会のろうそく、ならの墨づくり



かおり風景100選に選定される (第957号)

第3次総合計画がスタート

(平成13年 第941号)

「世界遺産に学び、ともに歩むまち—なら」を都市の将来像に掲げています。



西部会館が完成 (平成13年 第941号)

西部地域の新しい拠点として、西部出張所、水道局西部営業所、西部公民館、学園前ホールがあります。



竣工した西部会館 (左) 開館式で演奏するY.S.K.シンフォニックアンサンブルのみなさん (下)



なら100年会館での記念式典 (上) 開所した当初の市保健所 (右)



奈良市の発展～合併の歴史

奈良市は、これまで合併によって発展してきました。

明治31年に市制施行して以降、隣接する町村と幾度か合併を行ってきましたが、昭和26年・30年・32年に大規模な合併を行い、現在の市域が確定しました。昭和28年～36年は、「昭和の大合併」として全国で合併が盛んに行われていました。



昭和32年の合併 (第55号)

「平成の大合併」と言われる現在、奈良市は昨年10月に月ヶ瀬村、都祁村と合併協議会を設置し、合併協議を進めています。

「中核市 奈良」が誕生 (平成14年 第967号)

奈良市は全国で29番目の中核市となり、保健福祉や都市計画など様々な分野で多くの権限が移譲されたほか、市保健所を新たに開所しました。

16	15	14	13	12
3	4	6	3	2
11	3	4	11	10
10	7	9	7	8
10	1	14	10	4
7	31	27	17	1
1		1	28	

平成12年～16年

<p>西部生涯スポーツセンター体育館がオープン</p> <p>アイドリング・ストップに関する条例を施行</p> <p>杉岡華郵書道美術館を開館</p> <p>公園ボランティア制度を開始</p> <p>なら工芸館が開館</p> <p>なら奈良館が開館</p> <p>第3次総合計画がスタート</p> <p>修学旅行記念植樹を開始</p> <p>西部会館開館式</p> <p>杉岡華郵氏を名誉市民として顕彰</p> <p>環境省「かおり風景100選」に「なら燈花会のろうそく」「ならの墨づくり」が認定</p> <p>中核市へ移行。市保健所を開所</p> <p>福岡県太宰府市と友好都市宣言</p> <p>男女共同参画センター「あすなら」が開館</p> <p>なら教育の日、なら教育週間、教育憲章を制定</p>	<p>東部地域等水道整備事業が竣工</p> <p>巨樹等の保存及び緑化の推進に関する条例、男女共同参画推進条例を施行</p> <p>都市計画マスタープラン策定</p> <p>奈良市・月ヶ瀬村・都祁村合併協議会を設置</p> <p>奈良市美術館が開館</p> <p>奈良まちかど博物館10館が開館</p> <p>しんだよりが1000号に</p>
--	---